私は日頃、仕事で、ダンスの指導をしています。私の住んでいる、吉岡町では、毎年十月に、「吉岡ふるさと祭り」が開催されます。町民の皆が集まり、野外ステージで、区ごとに、出し物を披露します。昨年度は、自分の区の代表として、息子と二人でダンスを踊りました。しかし、二人だけで踊るのも淋しいな。と、その時に感じ、本当は、もっとたくさんの人数で踊れるといいな一と、思っていました。さて、今年はどんなことをしようかと、考えていたところ、区長さんから声を掛けていただき、私がボランティアで地区の子供達にダンスの指導をし、踊ってはどうかと、提案してみました。区長さんも大賛成をしてくださり、夏の暑い日に、17 名の子供達が集まり、練習開始です。

私は、当スタジオにレッスンに来ている子供の生徒さんには、挨拶を、しっかりしようねと、声を掛けています。いくらダンスが上手であっても、人間として、日々の生活がしっかりしていなければいけないよと、言っています。今回、地区の子供達は、この当たり前の挨拶に、元気が無いのです。「皆、どうしたの？元気がないよ。」私は、皆に「大きな声でよろしくお願いします！」と、言おうねと伝え、何度か声を出すようにしていきました。きっと、始まった時は、この人は、一体何を言っているのだろう。と思う子供もいたと思います。私だって、息子がこのメンバーの中におり、子供達からうるさい奴だと思われるのは、いやだな一と、感じていました。しかし、今、親が何も言わない家が、多すぎる。しかも、人間としての基本の基本であるあいさつが出来ない。私は、皆に嫌われてもいいから、挨拶がしっかりできるようにしようと、しつこく、声を掛けていきました。何日かすると、大きな声で、挨拶が出来るようになってきました。やはり、言ってあげて良かったと確信しました。この時から、私の心も、子供達の心もオープンになり、休憩時間には、私のところに来て、色々話を、してくれるようになりました。

今年の夏は、とても暑く、午前中の時間でも、クーラーのない部屋での練習は、キツかったと思います。私も気持ちが悪くなりそうな時もあり、子供達は本当に良く頑張りました。

７月から９月にかけて、10 回程練習をし、皆の踊りも、大分、様になり、本番がすごく楽しみになってきました。踊りの合間に「ワッショイ！ワッショイ！」と言うところも、大きな声が出せるようになり、私は、今回子供達を指導することが出来て幸せだな一と、感じていました。衣装も、区長さんが中心となり、協力を頂き、半被がそろいました。

さあ、本番前日の、最後の練習日。しかし、皆の踊りは、なんだかぐちゃぐちゃになってしまい、明日はどうなってしまうのだろうと、心配な気持ちで練習を終えました。

子供達には、今までやってきたことを、一生懸命にやればいいし、緊張するけど、とにかく、楽しんで踊ろう！と話しました。

いよいよ本番！皆でおそろいの半被を着て、ステージに上がる。音が入った。私は、子供達全員が、自分の子供のような気持ちになった。どの子もキラキラと輝き、自分の出せる力を一杯にして踊っている！人々もどんどん集まり、ステージに見入っている。気持ちを一つに合わせて踊るって、人生の中で、たくさんあることじゃない。それを、今この瞬間にやっているなんて、私は嬉しくて、涙が出そうになった。最後に、司会者のインタビューを受けて、どの子供も、踊れて楽しかった。と、答えているのを聞いて、またまた、嬉しくなった。わたしの胸が、達成感で一杯になった。「やった！大成功！」私は、心の中で叫んだ。

今回のダンスの指導を通じて感じたことは、子供達は、目を掛けただけ、いい子に育つ。そのためには、まずは、親の目。そして、地域の目。学校の目と、多くの人が、子供達に関心を持つことが大切だと感じた。知らん振りをしない、子供に声を掛ける。返事が無かったら、もう一度、声を掛ける。そうしていると、子供も心を開いてくる。親が忙しくて見てあげられない時もあると思う。そうした時に、身近に気軽に話せる誰かがいることで、子供は、安心すると思う。また、悪いことは、悪い！と、言ってくれる大人が、少ない。見てみぬふりをせず、しっかりと、子供達を見守って行きたい。そして、ダンスを通じて、子供達に人として、どう生きていったら良いのかを、伝えて行きたい。